地域防災力向上を目指した住民ワークショップの効果に関する研究
～篠山市・美山町の重伝建地区を対象として～

立命館大学大学院　　正会員　○石井　隆之
立命館大学　　正会員　　大窪　健之

1　研究の背景と目的

多くの文化遺産が存在し、市民が生活を営む「重要伝統的建造物群保存地区」においては、「地区防災計画」として地区内の防災指針が策定されている例はあるが、自然災害などによる大規模災害の想定がなされていない場合が多い。このため、大規模災害が発生すれば、多くの文化財とそこに暮らす人の命を同時に失うことになってしまう危険性がある。重伝建地区では、歴史的町並みの保全が前提にあるため、既存の防災設備等のハード面を整備することが容易でなく、どう最大限活用するかといった地域住民の行動計画等ソフト面の対策を充実させていくことが重伝建地区においては特に重要だといえる。

本研究では、当事者となる住民の意見を抽出する手段としてワークショップを活用し、今後、重伝建地区の防災を考えていく上での継続的なワークショップの実施・評価を目的とする。

2　地震火災に備えた「地域防災力」の重要性

阪神・淡路大震災直後では、市民による初期消火活動が火災の鎮火・延焼防止に役立ったと報告されている。そのような環境構築のためには、計画段階から維持管理におけるまで住民参加が重要であり、住民参加の一手段として、住民ワークショップが挙げられる。（図１）

本研究で対象とした地域では、これまでに DIG（災害図上訓練）を用いたワークショップ（住民ワークショップⅠ）を実践しており、そこから挙げられた意見と事前アンケート調査をもとに、地域の防災上の課題を整理し、新たな住民ワークショップ（住民ワークショップⅡ）として発災対応型防災訓練の企画提案を行った。（図２）

対象地域は防災整備事業の実施前後の地区を比較するため、以下の２地域を選定し、発災対応型防災訓練を実施した。

・防災整備事業前：篠山市篠山伝建地区
（2008 年 12 月 21 日　13：00～15：00）
・防災整備事業後：南丹市美山町北伝建地区
（2008 年 12 月 10 日　13：00～15：00）

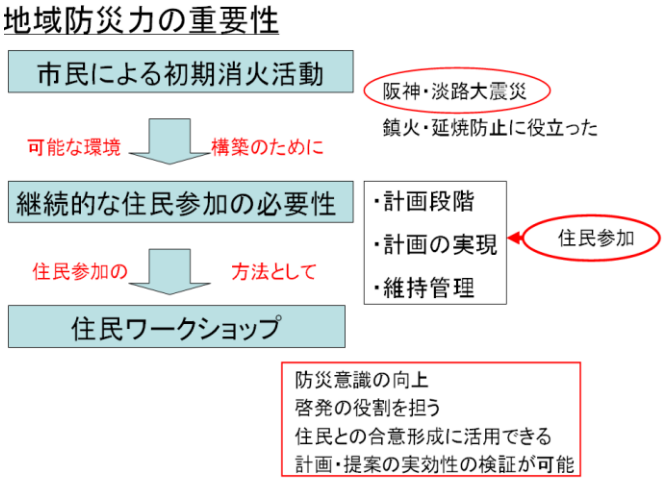

図１　地域防災力の重要性

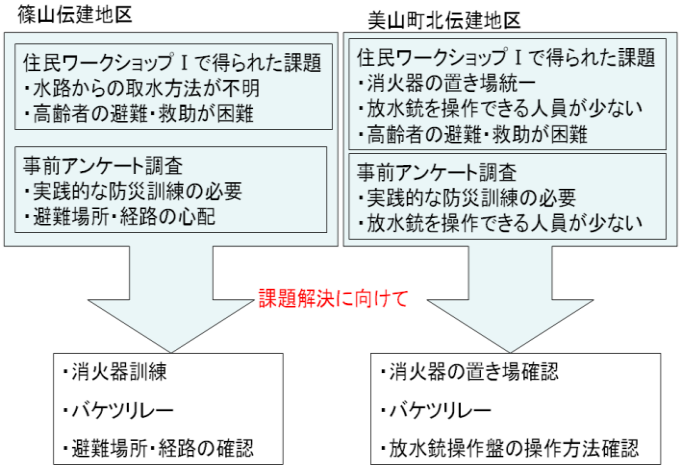

図２　住民ワークショップⅡの提案

3　発災対応型防災訓練の実施と評価

提案した内容をもとに、発災対応型防災訓練を篠山・美山町の２地域で実施した。訓練の前後でアンケート調査を実施し、住民ワークショップⅡ前後で

キーワード　重要伝統的建造物群保存地区、住民ワークショップ、発災対応型防災訓練
連絡先　〒525-8577　滋賀県草津市野路東１－１－１　ＴＥＬ077-561-2617（内線 6861）

の防災意識の変化について考察した。

調査項目の設定には、人が災害対策を行うまでの意識レベルについて分析モデルを指標として用いることで、各レベルにおいて質問項目を設けた。以下、アンケート結果の代表的な例を示す。

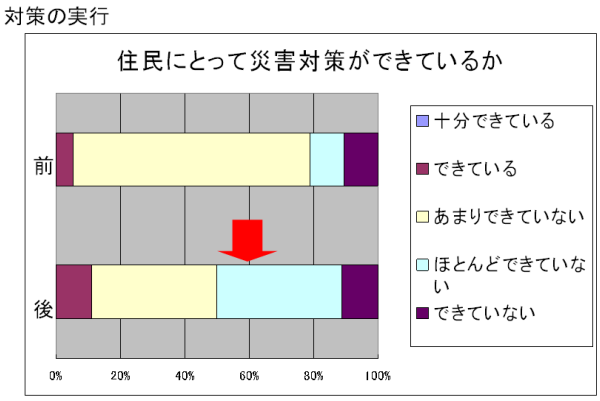

図３　篠山（事業前）における現状意識の変化

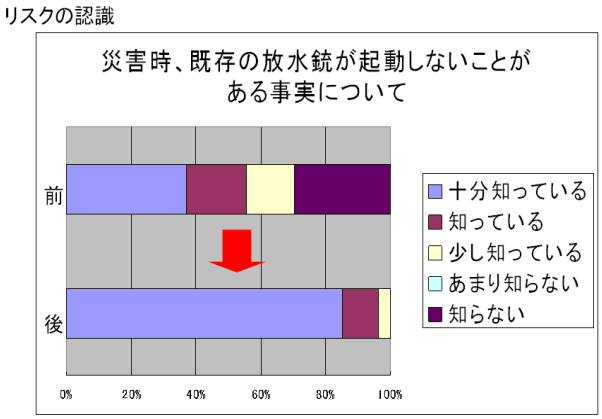

図４　美山（事業後）における現状意識の変化

篠山（図３）では、訓練によって個人・地域での対策への危機感が高まる結果となった。美山町（図４）では、放水銃の現状に触れたことで、リスクに対する認識が深まる結果となった。

４　住民ワークショップⅡの評価

住民ワークショップⅡで挙げられた意見、アンケート調査より、今回実施した住民ワークショップⅡの評価を（表１）に示す。

５　今後の課題

住民ワークショップによる地域防災力の変化を整理する上で、分析モデルの精査と複数地域で実施し母数を増やすなど、アンケートの調査方法の改善が必要である。住民参加型のワークショップを継続すると共に、今後は住民ワークショップから得られた知見を整備案への具体的提案に結びつけるためのプロセスと、他の重伝建地区への適応を通じた一般化のための研究が課題となる。

謝辞：本研究は、平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「重要伝統的建造物群保存地区の水利と市民防災力を考慮した地震火災対策に関する研究」に基づく研究成果の一部である。ここに記して謝意を表する。

評価項目＼訓練項目		消火器訓練	置き場確認	バケツリレー	避難場所・経路確認	放水銃の操作訓練
篠山	地域の防災体制を把握できる	○	○		○	
	自然災害に備えた対策を考えるきっかけとなる	○		○		
	防災整備事業における地域住民の意見を反映することが可能である			○	○	
美山町	整備された防災設備の安全性、機能性を確認できる					○
	防災設備が機能しない場合のフェイルセーフを考える機会となる		○	○		○
	防災設備の改善策を地域住民から得られる					○

表１　住民ワークショップⅡの評価